

高等学校理科地学担当教員の増員に関する要望

文部科学大臣 川端達夫 殿

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて今般学習指導要領が改訂され、なかでも高等学校理科が平成 24 年度（2012 年度）から先行実施となることを受け、私たち日本地質学会は高等学校での地学担当教員の増員を要望いたします。

日本は、世界的に見て、地震や火山活動、台風にとまなう水害など自然災害が発生しやすい地域です。また周知のごとく、日本は世界的な課題である地球温暖化など地球環境問題に積極的に取り組んでいます。それらの現象・課題の自然科学的側面を取り扱う地学分野の知識は、日本国民のもつべき基本的な科学リテラシーであると考えられます。また世界最高性能の掘削船「ちきゅう」による地震発生帯掘削、小惑星探査機「はやぶさ」や地球外生命など宇宙に関する話題、恐竜などの絶滅した生物に関する話題など、地学分野のさまざまな内容に対して多くの児童・生徒が関心をもっています。

学習指導要領の改訂で高等学校理科は平成 24 年度（2012 年度）から「基礎科目」（物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎）4 科目の中から 3 科目必修、または「科学と人間生活」＋「基礎科目」の中から 1 科目の合計 2 科目必修となります。上述のように地学教育に対する関心は高く、「地学基礎」の履修を希望する生徒は少なくないものと思われます。しかしながら高等学校の現場では、近年、地学担当教員の採用が少なく、地学分野を指導できる教員が不足しております。このため学校によっては「地学基礎」が教育課程に組み込めないとか、生徒の希望があっても開講できないといった事態が生まれる恐れがあります。

上述のような地学教育の重要性に鑑み、また高等学校で地学分野の学習を希望する生徒達を失望させないためにも、地学分野を担当できる教員の採用が積極的に行われますようご高配を賜りたく、よろしくお願ひ申し上げます。

平成 22 年 6 月 5 日

一般社団法人日本地質学会 会長 宮下純夫

高等学校理科地学担当教員の増員に関する要望

〇〇 教育委員会委員長 様

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて今般学習指導要領が改訂され、なかでも高等学校理科が平成 24 年度（2012 年度）から先行実施となることを受け、私たち日本地質学会は高等学校での地学担当教員の増員を要望いたします。

日本は、世界的に見て、地震や火山活動、台風にとまなう水害など自然災害が発生しやすい地域です。また周知のごとく、日本は世界的な課題である地球温暖化など地球環境問題に積極的に取り組んでいます。それらの現象・課題の自然科学的側面を取り扱う地学分野の知識は、日本国民のもつべき基本的な科学リテラシーであると考えられます。また世界最高性能の掘削船「ちきゅう」による地震発生帯掘削、小惑星探査機「はやぶさ」や地球外生命など宇宙に関する話題、恐竜などの絶滅した生物に関する話題など、地学分野のさまざまな内容に対して多くの児童・生徒が関心をもっています。

学習指導要領の改訂で高等学校理科は平成 24 年度（2012 年度）から「基礎科目」（物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎）4 科目の中から 3 科目必修、または「科学と人間生活」＋「基礎科目」の中から 1 科目の合計 2 科目必修となります。上述のように地学教育に対する関心は高く、「地学基礎」の履修を希望する生徒は少なくないものと思われます。しかしながら高等学校の現場では、近年、地学担当教員の採用が少なく、地学分野を指導できる教員が不足しております。このため学校によっては「地学基礎」が教育課程に組み込めないとか、生徒の希望があっても開講できないといった事態が生まれる恐れがあります。

上述のような地学教育の重要性に鑑み、また高等学校で地学分野の学習を希望する生徒達を失望させないためにも、地学分野を担当できる教員の採用が積極的に行われますようご高配を賜りたく、よろしくお願ひ申し上げます。

平成 22 年 6 月 5 日

一般社団法人日本地質学会 会長 宮下純夫